

**住育視点から見た工務店**

**宇津崎 光代** うつざき・みつよ  
ミセスリビング代表取締役

「住育の家」の考え方の提唱者。実生活でのさまざまな体験から、安全で安心できる住まいをつくるため、1986年ミセスリビングを設立。独自の「住育」視点で「住まいの大切さ」を国内外に訴え続けている。

**工務店社長の奥さんを輝かせ 楽しい暮らし広める「住育アドバイザー養成講座」**

「住育アドバイザー」とはいつたい何をするのか、疑問をお持ちの方もいるでしょう。そもそも住育アドバイザーというシステムは、私自身の経験から生まれました。

宇津崎工務店を立ち上げ、夫の手伝いとして入った建築の世界。もちろん建築の「け」の字もわからぬまま、電話番と現場片付けを任せられました。

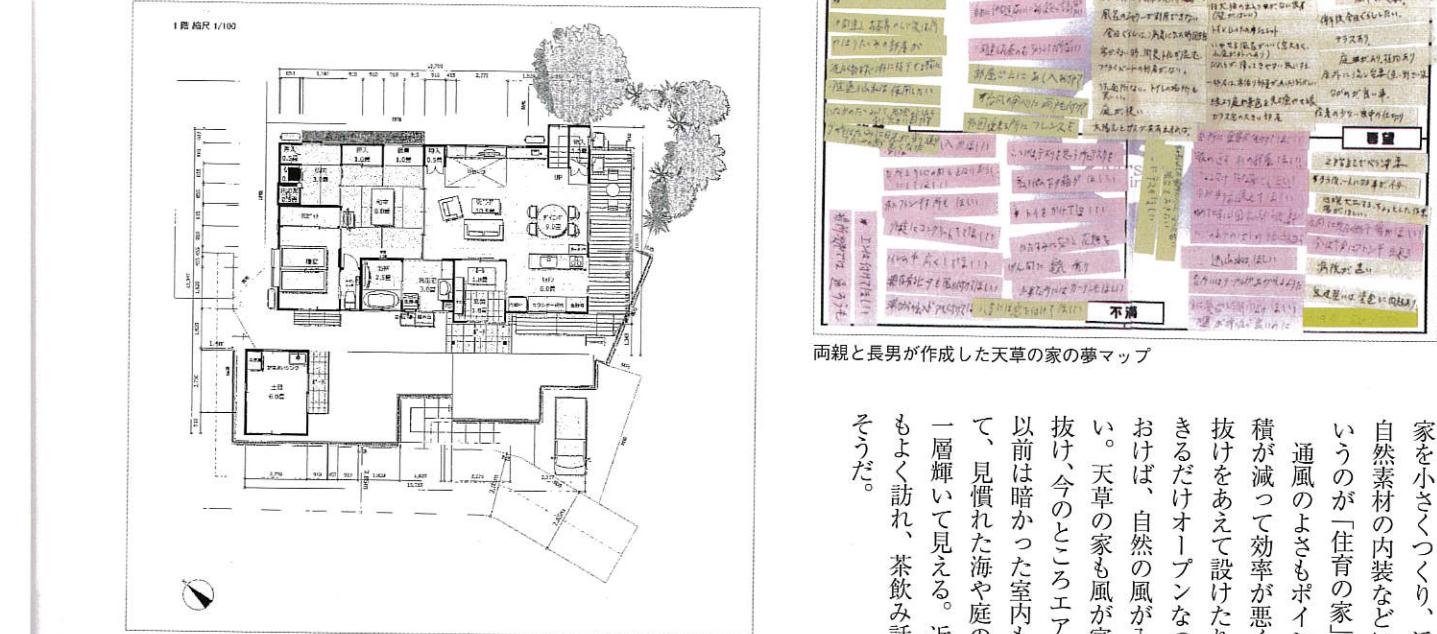
現場を片付けていて、どうしても納得できなかつたのが、玄関に近いトイレの位置。子供はお風呂に入ると気持ちくなり、濡れたままバタバタとトイレに走るのです。子育て中、お風呂の隣にトイレが欲しい!と思いつきました。しかし何度も聞いてくれませんでした。

家づくりには、私たち主婦のいい勝手が一番大切なのに、女性の

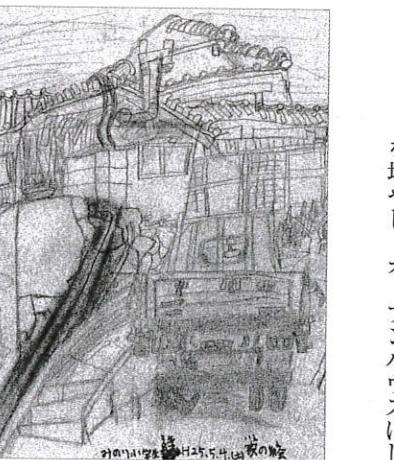
意見は取り入れられず、完全無視されてしまつたのです。子育ての中も困りましたが、母を介護して、もっと痛切に感じるようになりました。

そして、夫が他界してから、家事が楽にできる間取りを考案。水まわりを一直線につなぐ「楽スル」です。この考え方の基本には「もっと楽に動ける間取りだとストレスがとれる」「毎日の家事・子育てをしやすい間取りにしてほしい」という思いがありました。

この「住育」の間取りにたどり着くまでが、大変でした。3人の子育て、家事、仕事……寝る間も惜しんでインテリアコーディネーターの勉強を始めたのです。これからの自分たちのような共働きが増えるから、住まいに女性目線を生かさないと大変になる、働くお母さんたちを楽にして太陽のような存在にしてあげたい。そう願う



天草の家の1階図面。実際にはトイレと浴室を直に結ぶ扉はつけなかった



山中さんの長女が描いた天草の古い家

家を小さくつくり、浮いたお金を自然素材の内装などにまわそうといふのが「住育の家」の考え方だ。通風のよさもポイントで、床面積が減つて効率が悪く感じる吹き抜けをあえて設けたりもする。で抜け、今のところエアコン要らず。以前は暗かった室内も明るくなつて、見慣れた海や庭の風景がより一層輝いて見える。近所の人たちもよく訪れ、茶飲み話に花が咲くそうだ。

「お母さんともっと遊ぶ時間がほしい」という言葉もあつた。雅子さんはいま、家事と子育てと仕事を手一杯。だからこそ、自分の家を「住育の家」に変え、家事を短時間で終え、子供たちと遊ぶ時間を増やし、オープンハウスにして2人の娘の夢マップのなかには

「お母さんともっと遊ぶ時間がほしい」という言葉もあつた。雅子さんはいま、家事と子育てと仕事を手一杯。だからこそ、自分の家を「住育の家」に変え、家事を短時間で終え、子供たちと遊ぶ時間を増やし、オープンハウスにして2人の娘の夢マップのなかには

「お母さんともっと遊ぶ時間がほしい」という言葉もあつた。雅子さんはいま、家事と子育てと仕事を手一杯。だからこそ、自分の家を「住育の家」に変え、家事を短時間で終え、子供たちと遊ぶ時間を増やし、オープンハウスにして2人の娘の夢マップのなかには

### 妻と娘の変化

とほぼ同時期に住育アドバイザーの認定コースを受講した妻の雅子さんは、「住育の家」のよさを自分の家にも取り入れたないと考え、いま、自宅のリフォームを少しずつ進め始めている。小学校4年生と2年生の2人の娘といつしょに、家に対する思いや不満、夢を、色分けした付箋に書いて貼り付けているところ。「夢マップ」という「住育の家」のツールだ。

トナーでもあり、仕事のパートナーである。

それまでは自分の楽しみを見つけて、心を開放する時間となるべく多く持つもりだ。これは宇津崎さんの長女で住育アドバイザー養成講座講師の宇津崎友見さんのアドバイスもある。雅子さんはまだ生活を楽しむ余裕はないが、それでも夢マップを始めて気持ちが明るくなった。プラス思考がいい流れを呼び込んだせいか「迷ついた顧客が急に『前向きにリフォームを考え直してみる』と言つてくれて、驚いた」という。

実際、夢マップを作成しただけで家族関係がよくなつた経験をした人もいて「家族の思いを話し合うことそれ自体に意味がある」と雅子さん。「やはり口に出して伝えること、それを文字にすることには重みがある」と話す。

一連の取り組みを通じ、山中さん一家の家に対する意識は変わり始めている。一級建築士の資格を持つ真一さんは、自らのセンスや美意識が自己満足に陥らないよう、あらためて施工の声に思いを寄せる。それには、生活の実践者である雅子さんの力が不可欠だ。工務店社長の妻は人生のパートナーでもある。

現実には、設計図書・仕様書がきつちり決まつた仕事もある。「この通りにつくつてくれ」と言う施主もいる。そうしたなか、どのようにプラスアルファの提案を行っていくのか。家とは何か、生活とは何か、それを誰がつくるのか、施主の幸せとは、自分の幸せとは

住育サロンを開きたいという夢を持つ。

それまでは自分の楽しみを見つけて、心を開放する時間となるべく多く持つもりだ。これは宇津崎さんの長女で住育アドバイザー養成講座講師の宇津崎友見さんのアドバイスもある。雅子さんはまだ生活を楽しむ余裕はないが、それでも夢マップを始めて気持ちが明るくなった。プラス思考がいい流れを呼び込んだせいか「迷ついた顧客が急に『前向きにリフォームを考え直してみる』と言つてくれて、驚いた」という。

実際、夢マップを作成しただけで家族関係がよくなつた経験をした人もいて「家族の思いを話し合うことそれ自体に意味がある」と雅子さん。「やはり口に出して伝えること、それを文字にすることには重みがある」と話す。

一連の取り組みを通じ、山中さん一家の家に対する意識は変わり始めている。一級建築士の資格を持つ真一さんは、自らのセンスや美意識が自己満足に陥らないよう、あらためて施工の声に思いを寄せる。それには、生活の実践者である雅子さんの力が不可欠だ。工務店社長の妻は人生のパートナーでもある。

現実には、設計図書・仕様書がきつちり決まつた仕事もある。「この通りにつくつてくれ」と言う施主もいる。そうしたなか、どのようにプラスアルファの提案を行っていくのか。家とは何か、生活とは何か、それを誰がつくるのか、施主の幸せとは、自分の幸せとは

住育サロンを開きたいという夢を持つ。

それまでは自分の楽しみを見つけて、心を開放する時間となるべく多く持つもりだ。これは宇津崎さんの長女で住育アドバイザー養成講座講師の宇津崎友見さんのアドバイスもある。雅子さんはまだ生活を楽しむ余裕はないが、それでも夢マップを始めて気持ちが明るくなった。プラス思考がいい流れを呼び込んだせいか「迷ついた顧客が急に『前向きにリフォームを考え直してみる』と言つてくれて、驚いた」という。

実際、夢マップを作成しただけで家族関係がよくなつた経験をした人もいて「家族の思いを話し合うことそれ自体に意味がある」と雅子さん。「やはり口に出して伝えること、それを文字にすることには重みがある」と話す。

一連の取り組みを通じ、山中さん一家の家に対する意識は変わり始めている。一級建築士の資格を持つ真一さんは、自らのセンスや美意識が自己満足に陥らないよう、あらためて施工の声に思いを寄せる。それには、生活の実践者である雅子さんの力が不可欠だ。工務店社長の妻は人生のパートナーでもある。

現実には、設計図書・仕様書がきつちり決まつた仕事もある。「この通りにつくつてくれ」と言う施主もいる。そうしたなか、どのようにプラスアルファの提案を行っていくのか。家とは何か、生活とは何か、それを誰がつくるのか、施主の幸せとは、自分の幸せとは